

UMC-Japanese Ministry
11 Highgate Terrace
Bergenfield, NJ 07621 USA

新サーキットライダー2009年 5月号



ペトロ像、ペトロの生家があったカペルナウムにて

United **M**ethodist **C**hurch - **J**apanese **A**merican **M**inistry

合同メソジスト教会日本語ミニストリー

The Church of The Good Shepherd New Bridge Road & South Prospect Avenue, Bergenfield, NJ 07656

Pastor Jun Yoshimatsu 牧師：吉松 純

Church: (201) 385-4100, Parsonage: (201) 338-2744 Homepage: www.umc-japan.org

復活からペンテコステまでの間

その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第はこうである。シモン・ペトロ、ディディモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち（ヤコブとヨハネ）、それに、ほかの二人の弟子が一緒にいた。シモン・ペトロが、「わたしは漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何も取れなかった。既に夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。イエスが、「子たちよ、何か食べるものはあるか」と言われると、彼らは、「ありません」と答えた。イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打ってみると、魚があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかった。イエスの愛しておられたあの弟子がペトロに、「主だ」と言った。シモン・ペトロは「主だ」と聞くと、裸同然だったので、上着をまとめて湖に飛び込んだ。ほかの弟子たちは魚のかかった網を引いて、舟に戻ってきた。陸から二百ペギスばかりしか離れていなかったのである。さて、陸に上がってみると、炭火がおこしてあった。その上に魚がのせてあり、パンもあった。イエスが「今とった魚を何匹か持ってきたなさい」と言われた。シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引き上げると、百五十三匹もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多くとれたのに、網は破れていなかった。イエスは、「さあ、来て、食事をしなさい」と言われた。弟子たちはだれも「あなたはどなたですか」と問いたそうとはしなかった。主であることをしっていたからである。イエスは来て、パンと取って弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。（ヨハネ 21：1-4）。



（カペルナウム、ペトロの召命教会。主イエスはこの地でペトロと弟子たちに朝食を用意された。勿論、教会ができる以前の話）

桜の季節も過ぎ、俄かに初夏の雰囲気だよう5月となりました。このバーゲンフィールドのグッド・シェパード教会はフィリピン人が多いためか、キリストが十字架に架かった聖金曜日のテネブラエ（消灯礼拝）への出席者が多く、霊的な盛り上がりも復活祭よりもあったようにさえ感じました。フィリピン人のクリスチャンは16世紀から19世紀にかけてのスペイン統治下時代カトリックが国教だった影響が色強く残っているのかなと思いました。レント（受難節）中は毎週パンとスープの夕食と聖書の学びをしたり、聖木曜日には最後の晩餐礼拝をし、通常よりも色々なプログラムを持ち、忙しくも喜び多い復活祭を迎えましたが、復活祭とペンテコステ（聖霊降臨記念日）までの間、教会は平常スケジュールに戻り、日々淡々と過ぎていきます。

イエス様の弟子たちは過ぎ越しの祭りが終わった後、そのまま都エルサレムに残ったのではなく、故郷のガリラヤ地方に帰りました。そのことは復活の朝の御使いのお告げ『あなたの方が先にガリラヤへ行かれる。かねて言われていたとおり、そこでお目にかかる』（マルコ 16：7）やイエス様御自身の言葉「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」（マタイ 28：10）に書かれていますし、彼らが自分の生活の拠点がある地に戻るのにはユダヤ教の慣習から見ても当然のことと言えます。

ユダヤ人はイエス様の時代、年に3回都エルサレム詣でをすることが慣わしでした。過ぎ越しの祭り、50日後の春の収穫祭（麦の収穫）と仮庵（かりいお）の祭り（贖罪日ヨムキップールを挟んでユダヤ暦の新年を迎える祭り。秋の収穫祭とも言う。収穫はぶどうや秋にできる作物）の三回。仮庵は9月から10月ですが、過ぎ越しと春の収穫祭は50日しか日数が離れていなかったため多くのユダヤ人には財政的負担が大きくかなり大変だったようです。例えばガリラヤ湖周辺からエルサレムまではコースにもよりますが、およそ160キロから迂回しても200キロの道のりです。今日だったら車で3時間、飛ばせば2時間ちょっとで着いてしま

います。しかし車の無い時代、徒歩でしかも家族総出ですので、子供や女性の足ですと1週間はかかる道のりでした。往復で2週間、更に滞在費、途中の宿代などはかなりの出費でした。しかもその間、家の仕事は休まなくてはならない。都詣でで破産する場合すらあったようです。ですからお金を節約する為に、過ぎ越しの祭と春の収穫祭の間、ある人達はエルサレムか周辺の村落の宿や知人の家に留まったそうです。

(中川健一師、談)

余談ですが聖書を読んでいますと、イエス様の一行の都詣では途中、宿に泊まるよりは野宿が多かったのではと推測されます。「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない。」(マタイ8:20)これはイエス様が彼の弟子へ、伝道が大変であること、だから覚悟が必要であること、を説いた喩ですが、素直に読めばいつも宿に泊まって伝道できるほど金銭的余裕がなかったとも読めます。弟子たちはお金はありませんでしたので、過ぎ越しの祭の後、苦勞して故郷に戻ったのでしよう。

勿論、「ガリラヤで」という御使いのお告げも聞いたでしょうし、何よりもイエス様が十字架に架けられた都エルサレムに居続けるのは危険でした。弟子たちの帰郷は、行きのイエス様がエルサレム城内に晴れやかに迎え入れられ希望に満ちた時とは違って、悲嘆に満ちた失意のどん底での帰郷でした。復活祭当日、弟子たちが人々の目を恐れ身を潜めている様子がヨハネの20章などに書かれています。彼らには自分の主であるイエス様を裏切ったという罪悪感もあったので、尚更、その喪失感は言葉にならないほどであったでしょう。

そんな状況の中で、故郷に戻っても伝道などできるわけもなく、弟子たち、特に元漁師だった者たちは、元の仕事に戻ってしまいました。仕事に失敗した弟子たち、大望破れた情けない弟子たちの姿がここにあります。皆さんの中には人生の中で様々な苦難、困難にあい、夢破れ、人生の悲哀をなめ、失意の内に過ごした経験のある方もあるかもしれません。そのような道を通った方はこの弟子たちの姿が理解できるでしょう。ペトロの「わたしは漁に行く」という言

葉も何だか、遣る瀬無い、希望を失い、為す術もなく空しく日々を過ごしていた彼らが、とにかく何かしよう。まずご飯を食べよう・・・と不意に立ち上がり出て行った感じが描かれています。

泣きっ面に蜂ではありませんが、そんな思いで漁に出たって取れる訳がありません。夜通し舟をだしていたのに網には何もかかりませんでした。明け方彼らは疲れて帰ってきたら、なんと岸にイエス様が立っておられた。しかも「もう一度網を打つように」とを言われた。彼らがそのようにしてみたところ、舟一杯になるほど魚が取れました。弟子たちは「以前にもこんなシーンがあった。」と思ったのではないのでしょうか。(ルカ5:1-11)少なくともヨハネは直ぐに気づきました。それをペトロに告げると彼は裸同然だったので、上着をまとって湖に飛び込んだと書いてあります。漁をしているのですから当然濡れるわけで、裸に近い格好で作業するのは当たり前です。しかしペトロは主イエスだと聞いて、主=権威のお方であるイエス様にこのような格好では会えないと思ったのでしよう。またイエス様を裏切った懺悔から飛び込んだのかもしれませんが。そんな弟子たちをイエス様は直ぐに朝食を食べれるように炭火までおこし、正に暖かくお迎えになりました。彼を何度も裏切った弟子たちを咎める言葉を一切出さずに。何と深い愛、何と優しいお方でしょう。

因みに今回の引用を読んでいて聖書は面白いなあともまた思ったのですが、取れた魚の数が153匹と書いてありました。高だか153匹で網が破れるものか!と思う方もいらっしゃるかも知れませんが、聖地旅行でガリラヤ湖畔のホテルに泊まり、朝方、漁をしているキブツ(生活、労働共同体)の漁師を見たのですが、小さな舟に二人のり、仕掛けた網を一生懸命引き上げていました。その舟の大きさは、私たちが湖や池など行楽地で漕いで楽しむボートに毛が生えたような小さなものでした。ですから大きな魚(大きさは黒鯛やヒラメを想像して下さい。ペトロの魚はそんな大きさです。)が153匹も取れたら舟は沈むかもしれませんし、網も破けるかもしれません。しかし網は破れていなかった。(11節)それほどすごいことが、何気

なく起こったのです。これは毎日の淡々とした日々の生活の中で、多くの人が救われ、回心していくという事が起こっている、私たちの信仰生活にも似ています。



(ペトロの召命教会内、主イエスが座ってペトロに語りかけた
とされる岩)

イエス様はパンを取って弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。この行為は単に弟子たちの疲れを癒す朝食ではなく、彼らと約束を交わした最後の晩餐＝聖餐式も意味しています。聖餐を守ることはイエス様の救いの約束を信じる事、そして神の愛を実践することです。

心挫けた時、信仰から離れている時でさえ、イエス様は手を広げて、糧を用意して待っています。教会も牧師も信徒も心に虚しさを覚えている人、傷ついた人、また更なる力を必要としている人に常に同じように接しなければならない、この主に従って、と強く思います。平淡な日々の中でも。

吉松 純

日本語礼拝は毎週午後3時から礼拝堂で守っています。

礼拝予定：

- 5月 3日：礼拝、聖餐式、礼拝時間は地域の慈善プログラム Crop Walk があるため午後4時からです。
- 10日：礼拝、Jr. 教会、母の日の工作。
- 17日：礼拝、Jr. 教会、庭仕事
- 24日：礼拝、Jr. 教会、切手整理を通して途上国の人々のサポートをする。
- 31日：礼拝、Jr. 教会、ペンテコステの意味を学ぶ。

6月 7日：礼拝、聖餐式、Jr. 教会、初夏のクッキング

報告：

- * 以前日本語ミニストリーに集われ帰国された掛川満希姉と岡本剛兄が去る4月29日に品川教会でケニアで伝道をされている市橋牧師の司式でご結婚なさいました。おめでとうございます。お二人の新たな旅立ちが主に祝され、実り多いものとなりますようお祈りいたします。
- * 来る5月16日同じく日本語ミニストリーに集われ現在はボストン在住の杉本健太郎兄とタイ・イ・テン・テリー姉がご結婚されます。おめでとうございます。懐かしいパークリッジのホテルで吉松牧師が司式します。お二人の新生活に祝福がありますようお祈りいたします。
- * ユニオン神学校名誉教授で「水牛の神学」や「時速5キロの神」などアジアの大神学者と呼ばれた故小山晃佑博士のメモリアル(追悼式)が5月18日(月)午後12時よりユニオン神学校であります。先生の魂の安らぎ、御遺族の平安を心からお祈りいたします。

行事、プログラム案内：

- * 5月22日(金) SMJ 主催、吉松牧師解説による メトロポリタン美術館ツアー第3部 が午前11時よりあります。キリスト教と美術を主題に第1部は中世からルネッサンス、第2部はバロック宮廷画家、北方の画家たちなど、をしてきましたが、今回は新古典主義から印象派、後期印象派、野獣派、エコールド・パリ、キュビズムを回る予定です。(参加費は16ドル。会員の方も団体ツアーなので、一律料金は頂きます。ご了承下さい。申し込みは吉松牧師まで。人数制限がありますので、お早めにお申し込み下さい。尚、当日は現地集合です。
- * ギターリサイタルのお知らせ。6月6日(土)午後8時より、グッドシェパード教会で岩永善信氏のクラシック・ギター・コンサートがあります。入場料は無料ですが、岩永さん支援の自由意志献金をお願いしています。リサイタル後はリフレッシュメントもあります。皆様どうぞお出かけ下さい。

- * SMJ、ユニオン日本語教会、日米合同教会と私達の日本語ミニストリーが共催で小学生のサマーキャンプが持たれます。場所はシェルター島で日程は7月26日から8月7日までの2週間、費用は975ドルです。アメリカの方にはパンフレットを同封します。ご覧下さい。日本の方は <http://wontan.liu.edu/~izumi/camp/> をご覧下さい。
- * 東海岸日本語牧師会主催、小学生キャンプ。6月29日から7月1日(2泊3日)。このキャンプは日ごろ教会に連なるクリスチャン家庭のお子さんが対象です。詳細は吉松牧師まで。
- * 東海岸日本語牧師会主催、ユース・キャンプ (対象は中学生から20歳までの男女) 7月6日から7月10日まで。同年代の仲間と讃美、聖書の学び、スポーツ、アクティビティー、証などをし信仰を深めるキャンプです。詳細は吉松牧師まで。
- * 6月28日(日)ニューヨーク日本語教会、ユニオン日本語教会、私たち合同メソジスト日本語ミニストリーが合同で礼拝と讃美、証、交わりをメインに1日修養会をします。日ごろ他教会との交わりが少ない小教会にあっては、他の教会の信徒との交わり、証を聞くことは大きな恵みです。皆様、一日修養会に是非ご参加下さい。詳細は次回サーキットにて。

お祈り下さい。献金もいつでもお受けしています。

- * サマーキャンプの為
- * ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。
- * 消印のついた切手の周り1センチの余白を残して切り取って下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)に送ります。JOCS海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。
- * ケニヤの恵まれない子供達やエイズの患者さんの為に特別献金をしています。
- * パターソンのSt. Philip伝道と社会福祉団体CUMAC/ECHOの為に。どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。

チェックのあて先はUMC-JAとし、どのプログラムに献金したいか明記して下さい。

教会の住所：

UMC-Japanese Ministry

The Church of the Good Shepherd, UMC.
326 New Bridge Rd. Bergenfield, NJ 07621

英語オフィス(201) 385-4100

ホームページ：<http://umc-japan.org>

牧師館：(201) 338-2744

吉松牧師 junyoshim@optonline.net

教会学校担当：吉松 泉姉

izumi.yoshimatsu@gmail.com

Classical Guitar Recital

岩永善信クラシック・ギター・リサイタル



プロフィール: 1974年、第一回日本ギターコンクール第一位入賞。

1977年、パリ・エコール・ノルマル音楽院首席卒業。同校コルトー・ホールにて最優秀学生コンサート。

1977年、イタリア・ガルニアーノ国際ギターコンクール第一位入賞。

1978年、パリ国際ギターコンクール第二位入賞。

2007年カーネギーホール・デビュー。今回はニューヨーク市マーキン・コンサート・ホールでリサイタル。これまでフランス、ベルギー、イタリア、ドイツ、日本、韓国などで公演多数。

日時..... 6月6日(土) 午後7時30分

場所.....The Church of the Good Shepherd UMC

326 New Bridge Road, Bergenfield, NJ 07621.

New Bridge Road at South Prospect Ave.

入場料.....無料、自由意志による献金あり

インフォメーション.....The Church of the Good Shepherd UMC

吉松 純牧師 (201) 385-4100

junyoshim@aol.com